

韓国交流のあゆみ

(1) 鳴浜小学校と韓国との出会い

鳴浜小学校と韓国との出会いは、1989年7月に鳴浜小学校が日韓農村友情文化交流の会場になったことに始まります。鳴浜小学校が日韓農村友情文化交流の際の仮面劇の公演会場として提供されることになり、仮面劇（タルチュム）の伝統芸能が開かれたのが交流の始まりです。

文化交流団は、韓国外語大学の朴菖熙（パク チャンヒ）教授を団長に、大学生を主なメンバーとした約20名で、当時のPTA役員が中心になって受け入れの準備をしました。全国各地での交流を予定して来日した文化交流団の、初回の交流会場となった鳴浜地区では、ホームスティ、交流会、公演会場の設営など各部会に分かれて何度も話し合いがもたれました。

公演のための賛助金集めや、ホームスティのホストファミリー探し、交流会での食事の準備など直前まで各担当者は奔走しましたが、常に皆の心を離れなかったことは、初めて外国人の人々を自分たちの町に迎える不安と期待の入り交じった感情であったと思います。この準備段階で、幾人もの国際交流の経験者など、後で鳴浜小学校の姉妹校交流をバックアップしてくれる人々との出会いがありました。また、ほとんどの関係者にとって、まさに近くて遠い国であった韓国について断片的ながら知識を得てそれぞれの心のなかで韓国との出会いに対する期待が高まってゆきました。

タルチュムの公演は旧成東町はもちろん、近隣の町の人々を交えた大勢の観客を集め行われました。旧成東町の伝統芸能とあわせて、日没にかけて繰り広げられた華麗でエネルギッシュな公演に、私たちは驚き、感動し、心地よいカルチャーショックをうけて最後には会場全体を巻き込んだ大きな踊りの輪が出来ました。また、儒教の国といわれる韓国人の人たちの礼節を大切にする態度も私たちには新鮮で、好感をこえた尊敬の気持ちを起こさせるものでした。



タルチュムの公演